



突撃!

リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

2018
9月号

No.109 地方独立行政法人さんむ医療センター 医療安全対策室 室長 関川文代様 ・ 看護部 手術室 課長 小笠原恵子様



【さんむ医療センター／千葉県山武市】

■病院の紹介（抜粋）

昭和 28 年 6 月 病床数 51 床で竣工開院
 昭和 44 年 12 月 現在の位置に病床数 110 床で診療開始
 昭和 55 年 12 月 県の公立病院整備計画に基づき、病床数 220 床となる
 昭和 60 年 7 月 総合病院となる
 平成 4 年 3 月 増改築で 350 床となる
 平成 4 年 12 月 外来オーダリングが本格稼働
 平成 11 年 11 月 一般病床 350 床のうち 40 床を療養病棟としてオープン
 平成 20 年 5 月 療養病床 40 床を廃止し、一般病床 350 床に変更
 平成 22 年 4 月 新設型地方独立行政法人さんむ医療センターとなる
 （病床数 350 床）
 平成 24 年 2 月 許可病床数を 21 床減床し、329 床に変更
 平成 24 年 4 月 回復期リハビリ病棟開設
 平成 24 年 11 月 許可病床数を 2 床減床し、323 床に変更
 平成 26 年 1 月 かんわケア病棟開設
 平成 28 年 12 月 地域包括ケア病棟開設
 【病床数 312 床】

■病院の理念

患者中心の医療を行い、信頼される病院を目指します。

■病院の行動指針

1. 地域の子育て、健康の増進に寄与すると共に、地域特性（高齢化等）に配慮した医療を確立します。
2. 地域の中核病院として、保健・福祉・医療を包括し、地域医療連携の推進役となります。
3. 医学や医療技術向上の研修・研鑽に努めます。
4. 健全経営を基本とし、経営基盤を強化します。

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について教えてください。

医療安全対策室は院長直下に配置されて医療安全を確保するために、病院内の状況を把握し、エラー行動を繰り返さない環境や、事故を未然に防止するシステムを整備するための中心的役割を担っています。

主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

医療安全対策室は安全に対する職場風土を高め、患者さんが安心して医療を受けられるよう信頼性の維持・向上を目指すことを活動指針としています。

主な業務内容は3つあります。1.事故防止に関する事 2.医療安全に係る職員の教育研修に関する事 3.院内の事故に関する事があります。事故防止に関する事では、各部署の安全管理委員（医師・薬剤師・看護師・理学療法士・放射線技師・栄養士・検査技師・事務職など）14名と連携してインシデント・アクシデント報告の促進を図り、分析・結果を各医療現場にフィードバックして事故防止に繋げています。特に看護部からは多くの事例報告が提出されるため、看護部内の安全対策委員10名と共に、KYT・メディカルセーファー分析手法などを用いてより良い事故防止対策を実行できるよう努めています。

また何と言っても、医療安全を推進するためには、患者さんやご家族の協力が不可欠ですので、お名前をご自身で名乗っていただいたり、入院中にはネームバンドをつけていただくなど患者間違いを防ぐため、ご協力をお願いしています。

手術室運営委員会／栄養委員会／骨粗鬆症リハビリテーション委員会／薬事委員会／治験審査委員会／院外処方箋検討委員会
／化学療法検討委員会／病院感染対策チーム／検査適正委員会／輸血療法委員会／経営の質向上委員会／情報システム委員会
／医療安全管理委員会／クリニカルパス委員会／生活習慣病対策委員会／緩和医療委員会／将来構想検討委員会／広報編集委員会／褥瘡対策・NST委員会／回復期リハビリ運営委員会／診療録管理委員会／診療記録開示委員会／DPC検討委員会
／地域がん診療連携委員会／病院年報編集委員会／施設整備委員会／材料検討委員会／救急診療運営委員会
／医療廃棄物検討委員会／医療ガス安全管理委員会／拡大医療安全管理委員会／医療倫理委員会／研修プログラム管理委員会
／病院の質向上委員会／労働安全衛生委員会／図書学術委員会／院内感染対策委員会

【院内の各委員会一覧】

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

近年の事例発生状況やその原因や対策について教えてください。

2017年度はヒヤリ・ハット報告件数は約1,000件あり、そのうち転倒・転落の事例は197件と全体の約20%を占めています。その中にセンサーを使用していた事例は55件ありました。この構成比率は例年あまり変化はありません。

事故の主な原因は「排泄行為に至る離床」と分析しています。対策用具は年々進化していると感じていますが、入院患者の平均年齢は80才と非常に高く、転倒リスクが高い高齢者や認知症の方の入院率増加が重なって事故が減少しない状況です。

予防対策は当然ですが、患者さんが受傷しても重症（骨折がある3b以上）にならないような対策も重要だと思っています。特に離床センサーは抑制しない対策として印象が良く使いやすい対策用具で、事故の未然防止や重症化しないための対策として活躍しています。

特に注力されている貴院の特徴的な取り組みやシステムがあれば教えてください。

私（医療安全対策室長）は毎日「ひとり院内ラウンド」を行っています。スタッフや患者さんとコミュニケーションが増えて自然な形で様々な情報が入ってくるような効果を生んでいます。現場スタッフからは精神的負担軽減に繋がっている声があったり、実績としては離床センサー使用との相乗効果もあってレベル3b以上の事故がゼロになったことなど院内全スタッフの医療安全への取り組み意識が高まっていることを実感しています。このようにコミュニケーションを増やすことは、医療安全対策を継続していることを内外に告知する役割もあり、万一事故が起こった場合でも本人やご家族から問題視されることが少なくなりました。

私自身は話し方やメモの取り方・提示文書など対応の全てを相談できる弁護士さんの存在が非常にありがたく思っています。様々な面で病院・患者さんのためになる医療安全対策について取り組んでいます。

3. 医療安全に関する研修について

医療安全に関連した研修の年間実施計画や、地域病院との医療安全に関する連携があれば内容を教えてください。

基本的な考え方や具体策について学ぶための全体研修を、診療報酬で規定のある年に2回実施しています。昨年度の内容は「医療安全の基本」と「個人情報」でした。

医療安全対策の中心メンバーは昨年から Team STEPS にも取り組み始めていますし、院外研修にも積極的に参加し事故の構造やヒューマンエラーについて学び院内への啓発をすすめています。また、全職員対象にチーム力の向上を目的として5S活動発表会を年末に開催しています。

地域病院との連携については、今までは他病院の研修に参加していた程度でしたが、今年度からは「地域医療連携加算制度」の関係で当院は「加算1」を取得して他病院に訪問してラウンドチェックを行う関係にあります。この取り組みで自身の病院レベルが分かり、参考になる内容も多く大変刺激になると思っています。

4. 離床センサーについて

使用センサー：コールマット・コードレス×23台 / コールマット・徘徊コールⅢ×3台 / サイドコール・コードレス×10台
スマット・コードレス×14台 / タッチコール・コードレス×1台 / ベッドコールコードレス×3台
座コール・メロディタイプ×2台 / 徘徊ナビ・ハイパー×1台

離床センサーの使用基準や課題があれば教えてください。

センサー選択の明確な基準はありませんが、アセスメントで危険度を判定してカンファレンスを行ってからセンサーの使用を決めます。危険度が高い患者さん情報はスタッフ間で共有して患者さんの動きに合わせて対応しています。

離床センサーは抑制しない対策として非常に印象が良く使いやすい対策用具として活用しています。

※離床センサー選択の動機や使用の効果については、今号の「現場レポート」でご紹介いたします。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

今回のインタビューをきっかけに設置場所を選ばないようなセンサーや、患者さんが気付きにくいようなセンサーがあること、そしてセンサー選定フローチャートがあることを知りました。新しい情報を知ることができて嬉しかったです。

それと、今は離院・離棟対策ができるセンサーにも関心があります。

これからも良いものを上手に使用して効果を出したいのでメーカー勉強会などを利用したいと思っています。

※「離床センサー選定フローチャート」 <https://www.technosjapan.jp/cgi-bin/catalog/files/sensor.pdf>

※「ワークショップ」 <http://www.technosjapan.jp/safety/index.html>

6. 何か一言お願いいたします。

病院のPRやポリシーなどをお聞かせ下さい。

私たちは患者さんが在宅復帰するためにはリハビリが大変重要だと考えています。そのことから患者さんを抑制しないこと、寝たきりにならないことを強く意識しており、患者さんとはADLを維持・向上できるような関わり方が重要だと考えています。離床センサーにおいても、まだまだ上手く使えていないことを今回のインタビューを通じて知りました。まだまだ改善できる点があるので今後の取り組みにワクワクしています。